

# 令和7年度 学校評価（自己評価）報告書

## 1 本校の教育目標に基づく経営方針と評価の視点

### （1）教育目標

児童一人一人のすぐれた個性を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図るとともに、規則や規範を大切にすることを児童を育成する。

- ・ 思いやりの心を持ち、誰にでも優しく温かく接することのできる児童 やさしく
- ・ 自ら学び、かしこく創造力豊かな児童 かしこく
- ・ 進んで体を鍛え、たくましく、がんばり抜く児童 たくましく

### （2）経営方針と評価の視点（重点目標）

本年度の経営方針は、学校教育目標を受け、「一人一人が輝き、自己有用感・自尊感情に満ちた笑顔いっぱいの児童を育て、元気・やる気・思いやりのある学校を創造する」である。経営方針を具体化するための重点努力目標を以下のように定め、教育活動に取り組んできた。

- ① 学習指導の充実
- ② 教師の授業力・教師力の向上
- ③ 心の教育の充実
- ④ 健康的で安全な環境づくり
- ⑤ 開かれた学校づくり
- ⑥ SDGs の達成に向けた取組
- ⑦ 働き方改革にかかる業務改善

そこで、学校評価では、重点目標の達成度評価を基本とし、アンケート方式による教員・保護者・児童の評価と日頃の教育活動をもとに分析を行った。

## 2 学校評価（自己評価）

教育活動を通じた取組を評価するための項目を設定し、教員、児童、保護者（いずれも21項目）を対象にアンケート調査を行った。昨年度との比較については、グラフ【資料4～6】参照。

設問に対しプラスの評価（「とてもそう思う」＋「そう思う」）を百分率で表した数値を、評価の視点に従って以下に示す。【資料1～3】参照。

### 3 次年度に向けて

#### (1) 「学習指導の充実」について

本年度も、地域の環境や人材を生かした教育活動をすすめ、タブレットなどを有効に活用しながら、子どもたちにとってより魅力的で分かりやすい授業を目指し取り組んできた。今後も可能な限り、ユニバーサルデザインの視点からの教室環境づくりや「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業を目指し、さらに研究と修養に努めたい。

#### (2) 「教師の授業力・教師力の向上」について

校内の人的資源を有効活用し、短時間の研修を継続的に行ったり、時間割を工夫してOJTを取り入れたりして、授業力の向上を図っていききたい。OJTに関しては、教育活動全般において可能な限り取り入れていききたい。

ICT機器の効果的な活用と情報教育については、教職員、児童、保護者の全てにおいて、概ね肯定的な回答であった。タブレット端末のより効果的な活用方法を身に付けることや、指導者が機器の活用技術を高めていけるようにしていきたい。

#### (3) 「心の教育の充実」について

次年度も、Hyper Q-Uテストを行い、学級経営に生かすとともに、「自己有用感」「自尊感情」を高めるための取組や言葉がけを積極的に行いたい。同時に、児童が相互に認め合う活動を引き続き行い、児童の自尊感情を高めていききたい。

豊かな心を育てていくためには、道徳・人権教育が最も重要だと考える。授業時間だけでなく、学校生活全てにおいて道徳・人権教育の視点を意識するとともに、道徳の授業では、児童が互いを尊重し、助け合って生活するための基盤づくりを行うとともに、一人一人が、自分自身について深く考え、よりよく生きるためにはどうしたらよいかを問いかけ続ける力を養っていききたい。

子どもたちの感情豊かな感受性をもつ人間形成を目指し、読書指導にも力を入れていききたい。地域や家庭と連携したり、司書やボランティアなどの人材を活用したりしながら、よい本と多く出会い、人間性を豊かに育てていく取組をすすめていききたい。

児童理解に関しては、学期に1回、年間3回「心の悩みアンケート」を行い、いじめの未然防止に努め、何かあった場合は迅速な対応をとっている。しかし、児童アンケートで「いじめられている」と感じている児童が存在した。「桜小学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめが「教師の目の届かないところで起きているかもしれない」という危機感を常にもち、児童とのふれあいや児童理解を重視し、児童のわずかな変化を感じ取り、いじめ等の未然防止や解決・解消、及び相談活動に取り組んでいきたい。また、教職員間やスクールカウンセラー・ソーシャルワーカーと連携を図り、学年・学級をこえた人間関係、スマートフォン等を介した人間関係や児童や保護者が発する心のサインなどもいち早くつかみ、学校全体でいじめの未然防止に全力をあげて取り組んでいきたい。さらに、保護者とも情報を共有し、相談し合える関係を築いていくよう努めていきたい。

#### (4) 「健康的で安全な環境づくり」について

休み時間の遊具の貸し出しや体育委員会によるキャンペーン活動を通して、運動に触れる機会を意図的に設けてきた。また、授業時間内に一人当たりの運動量を保障する授業を目指し実践してきた。今後も、さまざまな機会を通して運動量を確保し、運動する楽しさや喜びを味わいながら体を動かすことの心地よさを体感させ、児童の体力を維持・向上させるとともに、休み時間や日々の運動量を高めることへとつなげていきたい。

#### **(5) 「安心・安全な学校づくり」について**

不審者対応に向けて、教員が考えて動く研修を取り入れ、万が一のときに臨機応変に対応できる教師集団の形成に力を入れてきた。今後もさまざまな想定のもと、研修を積んでいきたい。

災害に関しては、これまで経験したことのないような自然災害が各地で起きている。教師には「地域住民よりはるかに高いレベルの知識と経験が求められる」との見解があることから、「災害が起きたとき、どう行動すればよいかを、よく認識している」での高い数値に甘んじることなく、過去の災害から学んでいく必要がある。今後は、地域と連携した避難所開設の具体的なマニュアルづくりや、津波発生時や河岸堤防決壊時等の個別の災害への対応について、専門家の意見も聞きながら、さまざまなことを想定し具体化を図り、持続可能な取組をしていきたい。

#### **(6) 「開かれた学校づくり」について**

学校ウェブページについては、積極的に更新を行い、保護者に情報提供していきたい。さらに、各学年が柔軟な発想で誰でもウェブページを更新できるよう、職員の研修を行っていきたい。